

第3分科会 運営概要 評価・改善

【研究課題】	教育改革を進める学校づくりと評価における校長の在り方
【研究の視点】	1 新たな知を拓く資質・能力を育成する学校経営改革の推進 2 学校づくり・人づくりを確かにする学校評価・人事評価の工夫

I 分科会研究協議の運営計画

知識基盤社会においては、学びのイノベーションなどを可能とする新しい知を拓く教育が求められる。校長は、変化する時代の潮流や近未来的な課題と教育の役割をふまえ、自ら見識を高め、経営方針を明確にして教育活動を展開し、常に見直しをかけることが大切である。

本分科会では、教育を巡る状況と子どもの未来をしっかりと見据えた学校経営実現のため、迅速で実効性の高い教育活動の評価と改善の在り方を考える。具体的には、学校評価や人事評価をツールとしてP・D・C・A、組織マネジメントの活用を図るなど教育の改革を進めることができる学校づくりの方策や校長としての役割を追究する。

「視点1：新たな知を拓く資質・能力を育成する学校経営改革の推進」＜予想される話合い＞

- ・学校評価の結果と学校経営案作成における校長の役割
- ・経営ビジョンの共有のための学校評価の在り方と校長の役割
- ・教育課程の重点化と学校評価の項目数や内容の吟味、数値化による工夫
- ・迅速なP・D・C・Aを実現する学校評価の手順と校長の役割

「視点2：学校づくり・人づくりを確かにする学校評価・人事評価の工夫」＜予想される話合い＞

- ・子どもの姿による評価改善の方策と教職員の意識改革
- ・評価が低い項目の教育活動改善と校務分掌の見直し（組織づくり）
- ・反省重視を打破する学校評価の発想転換とシステムづくり
- ・人事評価における課題の洗い出しと改善策

II 昨年度までの課題

～平成24年度 上川大会～（参考）

学校評価をツールとした組織の活性化と教職員の資質向上を図る校長の役割について提言があった。成果として①学校経営方針と学校評価の反映 ②中間評価と年度末反省の連動③項目精選から組織づくりと意識改革へなどがある。課題として①子どもの変容をみとる評価方法 ②評価のねらいの共有化 ③学校評価と人事評価のリンク が浮かび上がった。

～平成25年度 渡島・北斗大会～

管内全ての学校（幼・小・中・高）で共通して取り組む学校改善の指針や統一した評価様式作成についての提言があった。実態把握→課題解決の明確な方針→具体的な方策など学校経営改善の手順が話し合われた。成果として、教職員の意識改革へつながる評価の工夫の在り方や人事評価と組織目標の連携による学校改善への有効性が話題となった。課題として、校長の強いリーダーシップの必要性や経営ビジョンの共有の工夫、評価の時期と回数が話題となった。

III 研究発表の概要

研究発表者 北斗市立茂辺地小学校 岩間 唯史

「教育改革を進める学校づくりと校長の在り方」

調査や実践を基に、教育改革を進める学校づくりのために教職員の意識改革に向けた学校評価の在り方と校長の果たす役割について提言する。

実践名「実践・評価・改善を日常的に意識させ、教育実践の向上を目指す」

学校改善の全体像を共通理解し、見通しをもった実践を繰り返し検証することで、改善意欲や経営参画の意識を高めた働き掛けや「評価環境」づくりの在り方を提言する。

実践名「教職員が主体性をもって目標達成するための組織づくりや環境づくり」

児童の実態から学校課題を共有し、解決の方向性を確認してから、組織の見直しを図りながら意思決定場面を創出した。教職員へのサポート体制を報告、提言する。

実践名「全職員に課題意識と改善への具体策をもたせ、協働体制による改善を目指す」

重要な案件は、その提案をブロックごとに回覧し検討する場面を設定してから全体協議を実施するなど、協働体制を充実させた方策とその効果について提言する。

IV 協議の流れ

- | | | |
|----|--|--------------------|
| 1 | 開 会：日程確認（5分） | 13:00～ |
| 2 | 趣旨説明（10分） | 13:05～13:15 |
| 3 | 参会者自校の課題を記録シートに記入（2分） | 13:15～13:17 |
| 4 | 研究発表（25分） | 13:17～13:42 |
| 5 | 質疑応答（28分） | 13:42～14:10 |
| | ・ 参会者は記録シートに研究発表の質問や感想を書き込む（8分） | |
| | ・ 全体で研究発表の質疑（20分） | |
| 6 | 休憩（10分） | |
| 7 | グループ討議（60分） | 14:20～15:20 |
| | 討議の柱 | |
| | 1 教育課程の改善を図る評価項目や評価指標の工夫・改善 | |
| | 2 学校経営ビジョンの共有化をねらった学校評価の在り方 | |
| | 3 職員の経営参画意識の高揚と組織の活用を図る学校評価の在り方 | |
| | 4 自己評価の信頼性や妥当性を高める改善と学校関係者評価の在り方 | |
| | <u>討議の柱から2本（課題1本と選択1本）をグループごとに討議する</u> | |
| 8 | 休憩（10分） | |
| 9 | 論点カード作成（5分） | 15:30～15:35 |
| 10 | 全体協議……グループ討議の交流と深化（35分） | 15:35～16:10 |
| | 6グループ×3分 | |
| 11 | 研究協議のまとめと今後の課題（15分） | 16:10～16:25（趣旨説明者） |
| 12 | 連絡・閉会 | 16:25～16:30 |

※参会者は、自校の学校評価シート（中間評価、年度末評価、学校関係者評価シートなどの一部分）をA4版1～2枚程度、**学校名を削除した写しを10部持参ください。**グループ討議で使用します。